

し ょ う わ つ う し ん
Show-a 通信

2018.1
第23号

北海道消化器科病院は消化器病分野の最先端治療で地域医療に貢献しています。

医療法人彰和会の「彰和 (Showa)」と明らかにするという意味の「Show」を合わせて、「Show-a通信」としました。
私たちの仕事をお知らせすることで、消化器科領域の最新医療をお伝えします。



**外来がん化学療法中の
B型肝炎ウイルス再活性化を
防ぐための取り組み**

薬剤部 主任 **地主 隆文**



**薬剤師の協働と
オリジナル管理システムの開発**

外来がん化学療法中の B型肝炎ウイルス 再活性化を 防ぐための取り組み

消化器
Frontier

HBV
Hepatitis B Virus

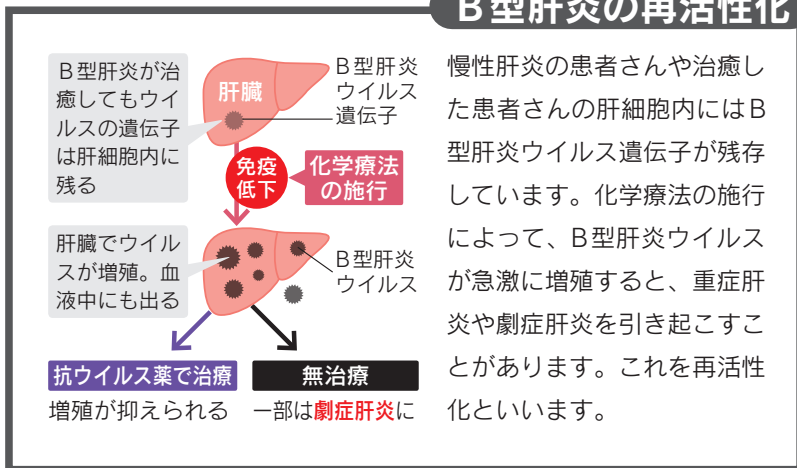
薬剤師の協働とオリジナル管理システムの開発

2012年、北海道消化器科病院で外来化学療法を受けていた患者さんにB型肝炎ウイルスの再活性化による肝炎が発生しました。すぐに治療を開始し回復しましたが、再活性化の肝炎の中には劇症化して死亡する症例もあり十分な配慮が必要です。当院では外来化学療法での検査体制を見直し、さらにメーカーの協力を得て、外来化学療法中のB型肝炎対策を管理するシステムを開発しました。

B型肝炎

B型肝炎ウイルスの感染によって肝臓に炎症が起きる疾患です。原因は集団予防接種の際の注射器の使い回し、出生時の母子感染や輸血など。感染者の約2割に肝硬変や肝がんが発症しています。日本では約150万人がこのウイルスに感染しているとされています。

B型肝炎の再活性化



外来化学療法の増加で 求められるB型肝炎対策

がん化学療法の副作用対策には予防と早期発見が重要ですが、外来で治療を受け、自宅で過ごす患者が増えたことから、より精度の高いモニタリングが必要になってきました。そうした中、問題となっておりは、化学療法などによって引き起こされるB型肝炎ウイルスの増殖・再活性化です。B型肝炎再活性化による肝炎は劇症化し

医師と薬剤師の協働で スクリーニング検査測定率が向上

当院では、B型肝炎ウイルスのスクリーニングが必要な外来患者に対し適切に検査が行われるよう薬剤師が積極的に関与してきました。

当院の「注射抗がん薬のB型肝炎ウイルススクリーニング検査測定率」を見てみると、2012年度はHBs抗体・HBe抗体の測定率は32・5%ですが、薬剤師が積極的に関与した結果、2015年度は87・

やすく死亡率が高いことから、抗がん剤を使用する際には、患者の肝細胞内にB型肝炎ウイルスが有るか否かを検査で明らかにし、そのリスクに応じた対策を講じることが重要になります。

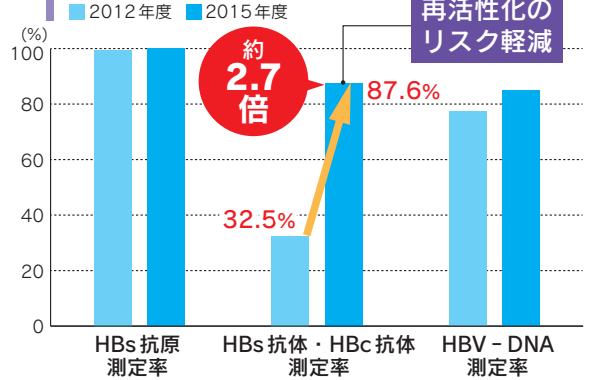


薬剤部 主任
薬剤師 地主隆文
外来がん治療認定薬剤師
博士(薬科学)



管理システムを使用すると外来化学療法患者のスクリーニングは約10分で完了です

北海道消化器科病院
注射抗がん薬のB型肝炎ウイルス
スクリーニング検査測定率

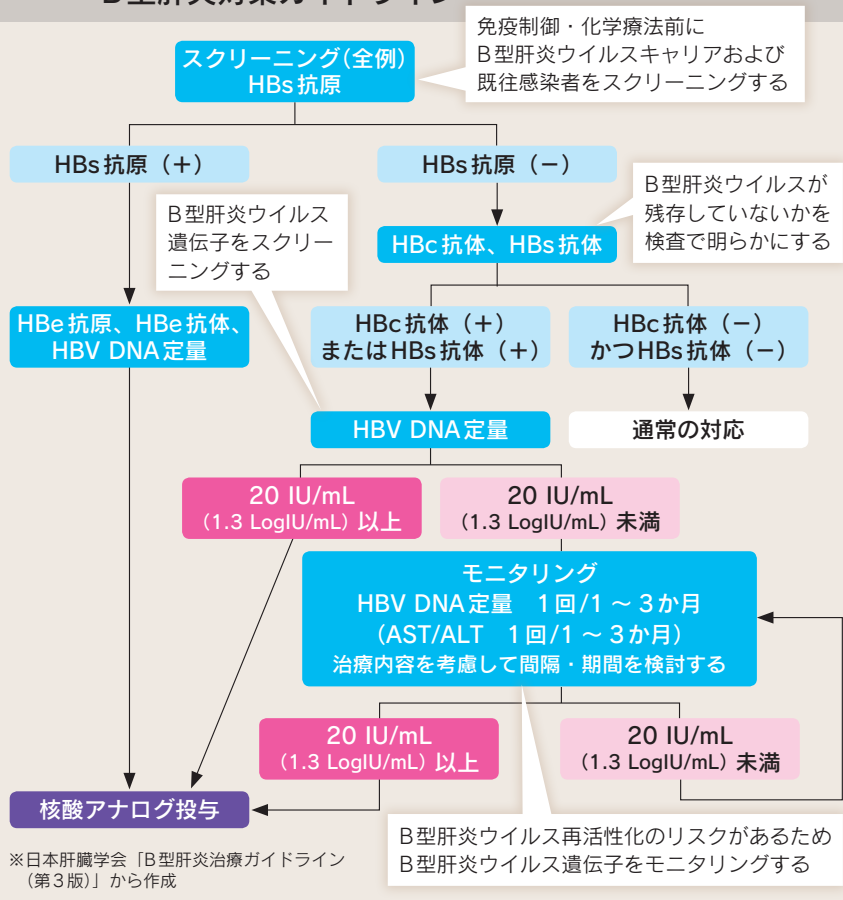


当院薬剤部がメーカーと共同で
開発したオリジナル管理システム

B型肝炎ウイルスの再活性化を予防するにはスクリーニング検査測定率を100%にする必要があります。
そこで、「免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎対策ガイドライン(図1)」

6%に上昇しました。

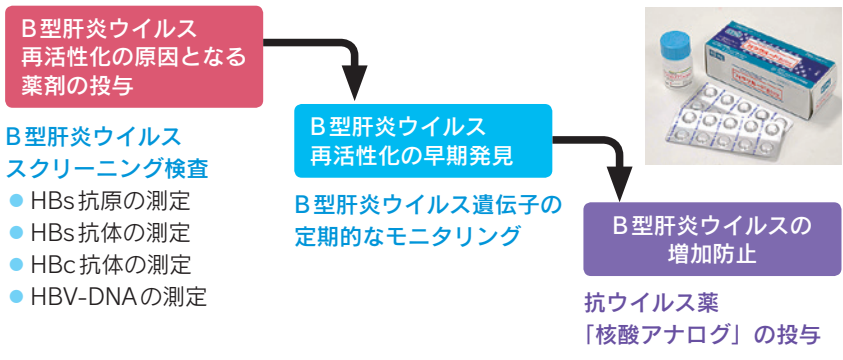
図1 免疫抑制・化学療法により発症する
B型肝炎対策ガイドライン



※日本肝臓学会「B型肝炎治療ガイドライン(第3版)」から作成

に沿って、対象患者のスクリーニングやモニタリングが電子カルテで行える管理システムを当院薬剤部がメーカーと共同開発し、2017年10月から稼働させています。
当院ではこのシステムによって、薬剤師が対象患者の治療前に「B型肝炎ウイルスのスクリーニング検査」をチェックし、B型肝炎を持っている患者さんにはウイルス遺伝子の定期的なモニタリングの結果を抽出して、検査漏れがないかを確認し、外来

👉 B型肝炎ウイルス再活性化防止のポイント



化学療法の安全性を高めています。
また、3月ごろにPbDDM (Protocol Based Pharmacotherapy Management) の導入を予定しています。PbDDMとは「医師と事前に協議し合意されたプロトコルに基づいて協働で薬物治療を進めていくこと」です。薬物の投与前に肝機能検査のオーダーが出ていなかった場合には薬剤師の判断で検査オーダーを入力するなど、B型肝炎ウイルス再活性化ゼロを目指します。

医療技術を向上させるため
職員全員がつねに学び続けています

9/12 平成29年度 医療機器安全管理研修

◆テーマ「医療分野における放射線の基礎知識（放射線被ばく）」

講師：株式会社千代田テクノロ
工藤亮裕氏



10/20 札幌東区緩和ケア懇話会

◆特別講演「薬の連携強化の生知識と薬剤師職能～新しい医薬協働とは～」

演者：東京女子医科大学東医療センター
薬剤部 薬剤部長代行 伊東俊雅氏



◆一般講演「緩和ケア外来におけるオピオイド使用状況と副作用対策」

演者：北海道消化器科病院 薬剤部 鈴木直哉



11/8 IBD 学術講演会

◆特別講演「J-POPとCAPTAIN～本邦のIBDが志向すべきこと～」

演者：兵庫医科大学
炎症性腸疾患学講座内科部門
特任准教授 渡辺憲治先生



12/4 消化器病臨床病理懇話会・特別講演会

◆特別講演「EUSガイド下瘻孔形成術の現況と展望」

演者：愛知県がんセンター中央病院
消化器内科部 部長 原和生先生



Show-a Topics

は、医師・看護師・薬剤師・ソーシャルワーカーなどの医療者とチームを組む、患者さんとご家族にケアを提供します。

ボランティアは、医師・看護師・薬剤師・ソーシャルワーカーなどの医療者とチームを組む、患者さんとご家族にケアを提供します。

本院の緩和ケア病棟では2016年10月にボランティア導入準備委員会を発足させて患者さん・ご家族の満足感と充実感を高める療養のあり方を検討し、2017年6月からはボランティア6人と共に活動を開始しています。

患者さん・ご家族に
あたたかなふれあいと癒しを
医療者とボランティアが
手を組んでケアを提供します

現在当院で行われているボランティア活動

- 音楽療法時のドリンクサービス
- 緩和ケア病棟内の季節ごとの飾り付け
- 中庭や鉢植え管理
- ランチオンマットや排液バッグカバーの製作

募集要項

年齢：18歳以上 性別：不問
活動日時：月～金（土・日・祝は休み）
10時～16時までのご希望の時間
（12時～13時昼休憩）

交通費：支給あり（条件があります）

ボランティア活動に興味のある方、説明会の参加や活動の見学を希望される方は、ぜひご連絡ください（ボランティア担当：看護部 山田）

電話 011-784-1811

FAX 011-784-1838

E-mail kango-kyoiku@hgh.or.jp

未経験者でも「やってみよう」という方は大歓迎です

もたらす存在として関わることです。その結果、医療・看護だけではかなえられない、安心や希望の実現を手伝うことができます。

これからも、ボランティアに参加いただける方を募集しながら、バザーや遺族会なども行いたいと考えています。

緩和ケア病棟
ボランティア
募集中

ボランティア
グループ
まはな



MAHANA
Ease you... since 2017



ディールームに季節の飾り付けをしています

※「まはな」とは、ハワイ語で「あたたかい」タヒチ語で「居心地が良い」という意味です



医療法人 影和会
HGH 北海道消化器科病院

消化器内科、腫瘍内科、内科、消化器外科、外科、肛門外科、緩和ケア内科、放射線科、麻酔科、病理診断科

- 設立：1988年2月20日
- 住所：札幌市東区本町1条1丁目2番10号
- 電話：011-784-1811 □FAX：011-784-1838
- ホームページ：http://www.hgh.or.jp/
- 病床数：199床